黑塚

昭和改訂版

内十三

特258
674

始

特258
674

黒塚

（梗概）紀伊國那智の東光坊の祐慶同行を伴ひ国國の途次、奥州安達原にてとある草庵に宿りぬ。あるじの女わくかせ輪といふ賤の女の糸とる器を前に、或は世を渡る業の物憂きを歎じ、或は糸に縁ある言葉をつらねて繰返し〳〵扱うて見せけるが、やがて上の山に上り、薪をとりて來る間かまへて此閨の内をは見給ふなと堅く戒めて出で行きぬ。僧は不審に思ひ密かに内を窺ひ見しに死屍山の如く膿血解け合ひ虐臓糜壊せるにぞ僧は安達が原の黒塚に籠れる鬼の栖かと足に任せて逃がれ出しが、女歸りて見露されたるを怒り、鬼女の本性を現はし追ひ迫りしを祐慶却て祈り伏せしといふ曲。

シテ　賤の女
後シテ　鬼女
ワキ　阿闍梨祐慶
ワキヅレ　同行山伏
所　岩代國安達原
季　秋

次第

黒塚

わきつよき弓

旅の空なる藤袴　北へ〳〵と雲ぢけき神
や岩ねをこゆらん　わき上　見ぬ形智の糸光坊
の阿闍梨祐慶と申す者なり　ツレ　つよき
門掛撥の行者ハ山伏修行のたより也
わきつよき　ツレ　然野の順礼ハ國ハ皆觀門乃習ひなり

二人（中）
（下）
[illegible]るに秋雲は間ゑよりつる頼あり（上）
[illegible]思ふ行末を越らんと　わが却山を立
出て（歩）行く　行く末は紀の路濱吉ぶ紀
の浦をきつるまつ線の濱乃杉ふる松
吉ぶき行旅衣日をとまるまきば猶もあく
名ふ乃ふ少し（下歩）陸奥乃安達ヶ原よ過ふ
ヒト（下）
[illegible]（わき）急ぎ程よ陸奥安達ヶ原
ふるまて（上）日乃暮て（上）程ふ武蔵よ宿をか
らばやと（上）存（つま）むまて（サシ禾上）実（ワキ）他人の
[illegible]程せしき相ハよ[illegible]何ふじ[illegible]ふ憂
世よ秋のきて[illegible]風を身ふしめども
[illegible]脳を休むる事もなく明日を空しく暮

ぬればまどろむ夜半ぞ命なるあら定
めなの生涯やな
わき　いかに此内へ案内申候
して　誰にて渡り候ぞ
わき　是は此辺の者な
るが行暮て候へば一夜此宿を
かし給へ
して　餘りに見苦しき柴の庵
にて候程にお宿は叶ひ候まじ
つよ上　いかにや
あるじ聞給へ我等如く陸奥の安達
が原に行暮て宿をかるべき便りもなし願
くは我等を憐みて一夜此宿をかし給へ
して　人里遠き此野辺の松風烈しき閨の内に
いかでかお宿を参らすべき
わき　よしや旅寝の
草枕今宵計りの仮寝せん唯々宿を

かゝ隠へ　住あるゝ我ごゝろと夏草の
ふ　嵯峨と南〳〵んと紫北戸を　はせぐ思
へば情ハしさに　さゝ〳〵ばとで涌り隠へ進
屋をひゝきこゝ出る半セイ　おと葛も涌ぐ
る草延半セイ　うたでや今宵ちきれ
まゝ　ちゐるゝと宿を伯耆かゝく袖
の露ふりきゝ葛の尾のせゝなきゝ旅
袖乃庵ぞ　ゆうきく　いろよりに
中ハ芝成ハ伯とゆ　ゆゝ　ゆゝ
我〳〵ときの者ハ学むゝかせわと
ゆゝ　はゝ　今宵のおもて形に
いとるゝ見せ　孤や旅人哀

みるめをたぐぼい川となく賤の業は
――――――――――――――――
そ掛うなまき　わきまつよひとゞ掛るは宿乃
――――――――――――――――
あるゞ此情深き業の　月もさゝいな
わき――――――――――――――
関此中は　同次第　麻苧乃糸をくりくへし
麻苧の糸をくりかへし昔を今よあさ
――――――――――――――――
ぢや　時ぐうみ苧のよなまぐも

同上　苧乃糸をくりくれ　ぬましや
――――――――――――――――
人界乃生を受ぐ　かゝな拙き世乃
――――――――――――――――
生き身をくるまむ　思しなよ
わき二人サシ上　さら形の人此云乃業や先生身をたま
――――――――――――――――
事てう佛身を形ふ使りもあれ　かゝな
――――――――――――――――
浮世よるゞくへて明暮る涙ぬき身ぬれども

[illegible]んぶ眞の乃ゝよけひ者バ勝〳〵ぞとて色
[illegible]絲よなど佛果北孫とな〳〵ぢ〳〵ん 歩

曲下ニ[illegible]
唯是地水火風乃かゝるたぐ〳〵くもま
つたれて生死よ輪廻しゝ道ゝ乃ゝよめ
ぐ者事唯一心の業ひなり凡人間ゝ
あゞなるゝとを楽ぞるゝ人さ〳〵よ義き

[illegible]事者し孫よハ老となる物をり程を
[illegible]のなゝ夢北世を者ゞ者やいとハぎ者者ゞ
[illegible]らゞ何ゞ者るゝ[illegible]我ゝ恨ゝて色かひ形のり
[illegible]ゝ上 歩 ゝ者ゝ
[illegible]ハ 日芸法北糸の冠きしゝそ
[illegible]ゝ名ゝ者るゝ人ゝ者ゝん 日 賀茂の法生孔

[illegible]
小鈴里しハ　孫毛の車とて我きけヤ
同上ニ注リ[illegible]
糸桜多くを感りよ咲須ハ　くる人お
[illegible]
ゆき毒の芝る　付　紅よ出る秋乃糸薄
[illegible]
月ふよ清をや待ぬ[illegible]ん　同上　今をを踏ご
[illegible]
くを清糸の　長寿糸のつまをあきを　長
[illegible]
紀命のはきおさ思ひ明石乃浦ふ多

[illegible]
寿をのこ特りあきあらた寿をのこひ
[illegible]
とりなを紀明を　篠りよ夜寿をよ寝ふ
上
上北山よあゞ里茅を元ゆよたいく所て
ノ
茅せいん　辞こ女性の涉分とを
わき
下
殊更茅陰のすにくひ寝よ上寿思ひを
ノ
よ〳〵ぬ事ふてい　いや以つも通ひあれる

ろまて此程世に住居候へ軽て御帰り候らん

わき 候はゞ軽て御帰り候へ

して なふ〳〵かまへて妾が閨のうちばし御覧候な

わき 云語

ろ郎さむらうに人の閨などを見んずる客僧

みえ給はぬ

して 候はゞやがて御帰り候へし

中入

わき 弓上 不思議やあるじの閨の中を物の隙より

能く見れば人の死骸は数しらず軒とひとしう積置たり膿血忽融滌し臭穢は満て膨脹し膚膩悉く爛壊せり

いか様是は音に聞安達が原の黒塚に籠る鬼の栖なり

上 おそろしやかゝるうき目を陸奥の安達が原の黒塚に

罷籠りと詠じけん古の人もとかく
ゆらんと　心もまどひ肝をたしく
行べき方は志らねども足に任せて迎て
行く〳〵　いつに旅人とまれとこ枕
去にくも隠し置て谷の関此中をあき
猶よなきれ申つる娘の為に来りし里

胸をうつゝにかのほむら哉嶮岨の宮も此嶺りぞ
んぐ〳〵より　雲風山風吹落て
なほ猶も稲妻天地にみち　空も動く
も晴る此嶺乃　是一口にくふんとて
歩みよる足もふりあぐる鉄杖のいき
おひあたりをはらつて飛行しや

上
東方に降三世明王　南方は軍陀利
夜叉明王　西方は大威德明王　北方は
金剛夜叉明王　中央は大日大聖不
動明王　二人中　唵呼唵〻〻拵羅弥麼〻拵
唵阿毘羅吽欠　同上　唵婆婆の吽　多羅吒
干鞞　見我身者菩提心〻〻閉

我名者影惡海若　強象説者滑大智
恵知象身者見身成佛　即身成仏と
明王北　南無阿弥陀　この者　きあり者
彩里　世ふなり　抱きりよ　今とハさ
色実〻〻　いろをなつる　君女るぐ
白玉弱り果てく　天地は身をつぐめ眠く

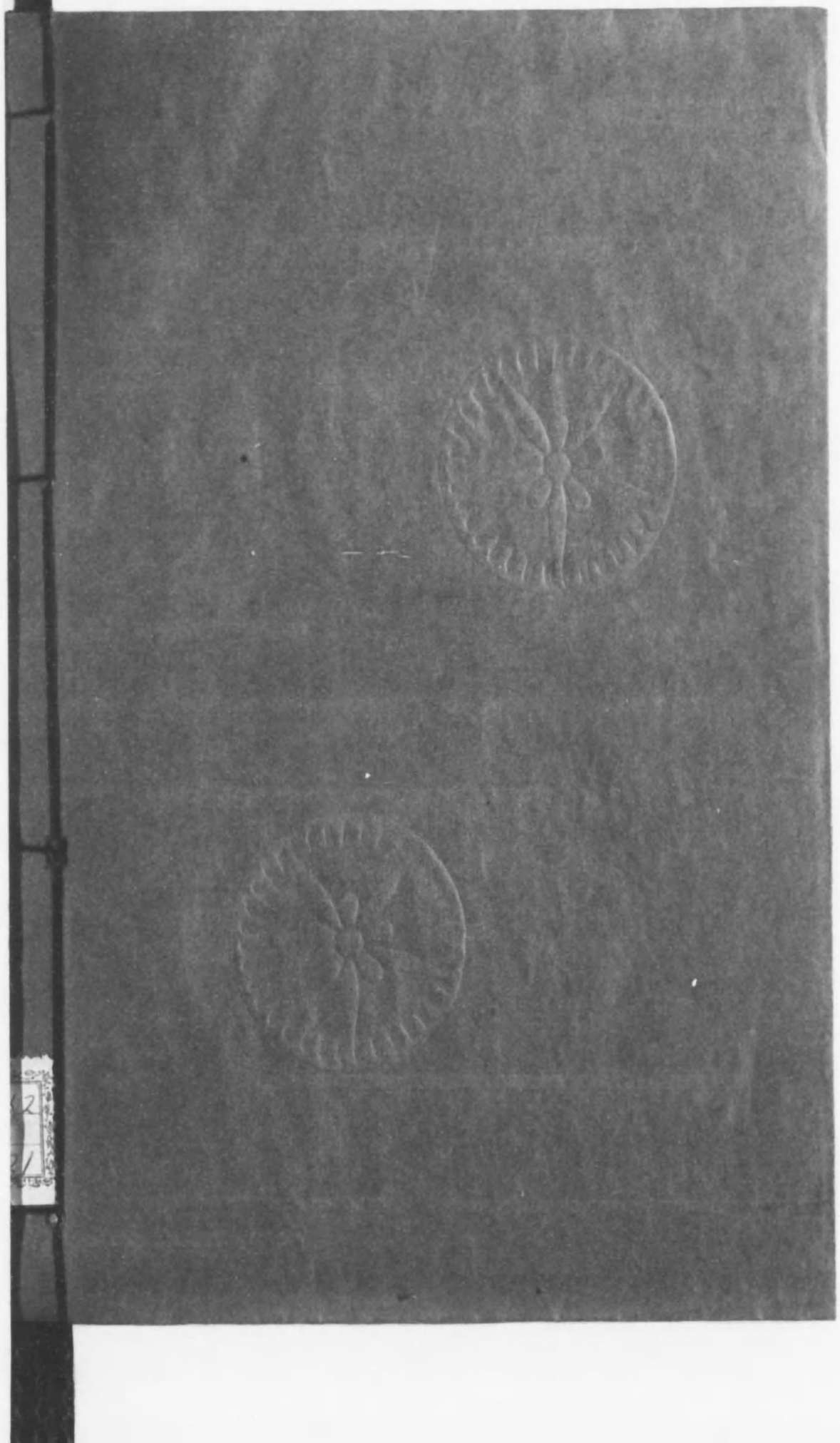
昭和九年十二月廿五日印刷
昭和九年十二月三十日發行

定價金五拾錢

著作者　東京市下谷區上根岸町八十二番地　寶生新

發行兼印刷者　東京市京橋區銀座西六丁目三番地　江島伊兵衛

發行所　下掛寶生流謡本刊行會

著作權所有

終